

## 令和 7 年度全国学力状況調査の結果 京都市立大將軍小学校

4 月 17 日に、本校 6 年生を対象に実施された「全国学力状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数、理科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

### 総合結果

全体的に非常によくできています。本校6年生は、全国平均・京都府平均を大きく上回る正答率でした。特に全国平均と比べるとどの教科も10%以上高い正答率となっています。無回答も少なく、最後まで粘り強く取り組む傾向が見られています。

### 結果（国語）

国語の本校の結果は、全国平均に比べて13%以上、上回っています。領域ごとに見ていくと、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」の問題は、非常に高く上回っていましたが、「書くこと」は、5%ほどしか上回っていない結果でした。

#### 【良かった点】

- ◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。
- ◎話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。

読書に親しみ、表現力を身に付けよう！

#### 【課題（伸びしろ）】

- ◆書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える。
- ◆目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた題材を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する。

### 結果（算数）

算数の本校の結果は、全国平均に比べて18%以上、上回っています。特に、「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域は、20%以上高い結果でした。問題形式でも選択式、記述式を問わず回答していますが、記述式の正答率に低さが見られました。

筋道を立てて考える習慣を。

#### 【良かった点】

- ◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、計算したり必要な数量を見出したりできる。
- ◎棒グラフや表から、項目間の関係を選んだり読み取ったりできる。

#### 【課題（伸びしろ）】

- ◆分数の $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数のいくつ文になるか数直線上に表すことができる。
- ◆都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書くことができる。

## 結果（理科）

3年ぶりに実施された理科の本校の結果は、全国平均より12%ほど上回っています。特に「生命」「エネルギー」を柱とする領域が高いです。問題形式を見てみますと、記述式に関しては全国平均とほとんど変わらず、低い正答率となりました。

知識を実生活に  
いかせる経験を。

### 【良かった点】

- ◎ヘチマの花のつくりや受粉、顕微鏡の操作についての知識が身に付いている。
- ◎土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、土の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現できている。

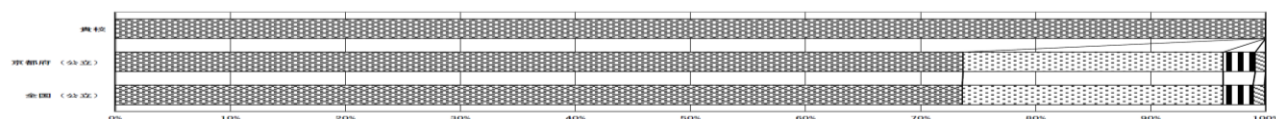
### 【課題（伸びしろ）】

- ◆アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかそれぞれの性質への知識が身に付いているか。
- ◆水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができる。

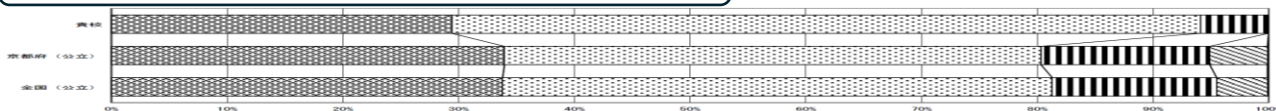
## 児童質問紙調査から①

■1. している    ■2. どちらかといえば、している    ■3. あまりしていない    ■4. 全くしていない

人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



地域や社会をよくするために何かしてみたいですか。



『人の役に立つ人間になりたいと思いますか。』という設問に対し、本校の6年生は全員が「当てはまる」と回答しました。100%という結果に、深く感動しました。学習においても、友人関係においても、「人の役に立ちたい。」という思いを原動力にできる人は、きっと力強く生きていけると感じます。この思いは、他の設問の結果にも表れており、たとえば『学校に行くのは楽しいですか。』『地域や社会をよくするために何かしてみたいですか。』『友達関係に満足していますか。』『普段の生活の中で幸せな気持ちになることはありますか。』といった項目でも、全国平均を上回る高い数値が示されました。

全国学力状況調査は、子どもたちの学習の状況を把握し、可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりするためのものであり、順位を競うことを目的としたものではありません。

「非認知能力」も含めた総合的な学力は、「学校・家庭・地域」での地道な積み重ねによって育まれるものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今後も、子どもたちの健やかな心の成長と、学びの環境づくりに力を尽くしてまいります。